都道府県名	佐賀県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	富士町立富士中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	０	３	９
生徒数	３０	２８	２７	０	８５	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

豊かな心を持ち、自ら考え、自ら学ぶ生徒の育成

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

○　全教科、全学年で、学力向上に対する取組を検討していく。

○　全学年・数学
　生徒の理解度に差が生じており、生徒や保護者の要望が多かったため。また当該教科に加配教員が１名配置になり、少人数授業やＴＴ授業を取り入れることができるため。

○　３年生・理科
　当該教科の教員が２名になり、少人数授業やＴＴ授業を取り入れることができるため。

(2)　年次ごとの計画

平成14年度

○　テーマ
　個に応じたきめ細かな指導の実践研究を通して

○　仮説
　ＴＴ授業や少人数授業等を実施すれば、教師一人で行う一斉授業のときよりも、生徒一人一人にきめ細かな対応・指導ができ、その結果すべての生徒に「確かな学力」を培うことができるであろう。

○　研究内容・方法
(1) 現時点での本校生徒の実態把握
　家庭での学習環境について、生徒と保護者に対してアンケートを実施し、家庭における生徒の様子と、保護者の考えを知る手だてとした。
　テスト（標準学力検査、実力テスト、定期テスト）の集計結果をもとに、生徒の学習面に関する実情を把握した。
(2) 生徒の実態に応じた授業形態の工夫・実践
　数学科では、選択授業と必修授業で生徒の希望を優先した習熟度別少人数授業とＴＴ授業を実践した。
(3) 学習環境面整備
　授業の妨げになっていると思われることがらについて、生徒にアンケートを実施し、改善できるところと今後改善すべきところを検討した。
(4) 個に応じた教材の工夫・開発
　選択授業において、補充・発展コースごとに個別問題の作成、活用した。
　必修授業においては、教科書の内容に準じた自作のワークシートを作成し、主にじっくりグループで活用した。
(5) 生徒の自己点検・自己評価による成果の検証
　授業形態、内容に関する評価表をもとに行った。
(6) 教師どうしの授業公開

(7) 小・中学校間相互の授業参観
(8) 推進校の実践情報収集

平成15年度

○　テーマ
　基礎・基本的な学力の定着を目指した、きめ細かな学習指導及び教材の工夫・活用

○　仮説
　ＴＴ授業や少人数授業等を実施すれば、教師一人で行う一斉授業のときよりも、生徒一人一人にきめ細かな対応・指導ができ、その結果すべての生徒に「確かな学力」を培うことができるであろう。

○　研究内容・方法
(1) １年次の課題を考慮した授業形態の工夫・実践
(2) 教科担任が一人の教科に関しては、一斉授業の中で、生徒の習熟に応じた教材等の活用を検討していく。
(3) 富士小学校及び富士南小学校との連携・情報交換
(4) 「朝の読書」（始業前）及び帰りの会・放課後などにおける補充的な学習活動（教科は国語、数学、英語）の効果を探る。
(5) 各種検定試験の実施
(6) 教師どうしの授業公開
(7) 生徒の学習（授業）に対する心構えについて、共通理解を図る。
(8) 生徒の自己点検・自己評価による成果の検証
　（授業形態、内容に関する評価表をもとに）

平成16年度

○　テーマ
　自ら学び、自ら考える力を育成するための、きめ細かな学習指導及び教材の工夫・活用

○　仮説
　ＴＴ授業や少人数授業等を実施すれば、教師一人で行う一斉授業のときよりも、生徒一人一人にきめ細かな対応・指導ができ、その結果すべての生徒に「確かな学力」を培うことができるであろう。

○　研究内容・方法
(1) ２年次までの研究課題を考慮した授業形態の工夫・実践
(2) 発展的、補充的な学習に使用する教材の工夫・活用
(3) 学習習慣を身につけさせるために、家庭との連携、協力を強化する。
(4) 「総合的な学習の時間」と各教科等との関連づけ
(5) 学習環境（施設面・心情面）の見直しと改善
(6) 基礎、基本の定着を図るため、校内で検定制度を実施し、生徒にも目標をもたせる。
(7) 柔軟な教育課程（時間割）の編成
(8) 朝の読書などの始業前、帰りの会、放課後などにおける補充的学習活動の効果を探る
(9) 小学校との連携・情報交換
　　生徒の学力の「伸び」を知るための追跡調査
(10)自己点検・自己評価による成果の検証
(11)研究の反省とまとめ

(3)　研究推進体制

校長 ― 教頭 ―― 研究推進委員会 ―― 全体研究会 ―― 学習指導部 / 学習環境部

○　昨年度と同様の体制で今年度も研究を進めた。
○　研究推進委員会は、校長・教頭・教務主任・研究推進委員（各学年１名）で構成する。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

(1) 各教科における成果

【数学科】

○　**１年生**

①　授業形態：中学生になったばかりであり、学習に慣れさせるため、１学期前半はＴＴ授業を行った。その後、生徒の希望を優先した習熟度別授業を行った。

②　前半は、各自が用意したノートを使用したが、後半はワークシートを使った。

○　**２年生**

①　授業形態：昨年度後期より、生徒の希望を重視した習熟度別授業を行った。

昨年度はグループ名を「バリバリコース］と「じっくりコース」としていたが、生徒の中から「グループ名を聞いただけで、数学ができる人とできない人に振り分けられている感じがする」との声が聞こえてきたために、本年度は当初から少人数授業〔２つのグループ（Ａグループ、Ｂグループ）に教師が等質で分けた〕で行った。

②　授業では、ワークシートとノートを併用した。

③　等質グループに分けた成果、どちらのグループにもペースメーカー的な生徒がいるため、授業の雰囲気が活発になり、発表しようとする姿勢がみられた。

アンケートをとると、昨年度の希望習熟度別授業より、やりやすいと答えた生徒が、半数以上いた。

○　**３年生**

①　授業形態：１年生のときには、担当教師一人の一斉授業を行った。

２年生のときには、ＴＴ授業〔担任がＴ１〕。ただし、選択授業では希望習熟度別授業を行った。第１単元のみＴＴ授業〔担任がＴ１〕だがその後、希望習熟度別授業を行った。

（数学が得意なαグループと数学が苦手なβグループに分かれた）

②　ワークシートを使用して、授業を行った。

○　２・３年生の選択授業では、昨年度は、教師が生徒の希望を聞いて問題を選び、取り組ませていたが、今年度は、生徒自身がコンピュータの画面を見て、自分が解きたい問題を選び、プリントアウトして問題に取り組む活動を行った。生徒からは、「問題を自分で選べるからよかった」という意見が多かった。

○　１・２年生は、クラスの取組として、帰りの会のときに、百ます計算を行った。

○　全学年とも、テスト終了後に、自分の間違った問題のやり直しを行い、提出させた後に、再テストを行った。

○　客観的データとして、現在の２・３年生の全国標準診断的学力検査（ＮＲＴ）の結果を比べてみた。現３年生は、数学の偏差値平均が４６.３から４９.２に上昇しており、学習の成果が現れた。特に、１の段階の生徒がいなくなり、５の段階の生徒が増えた。一方、２年生は、偏差値平均が４６.８から４５.８に下降しており、学習の成果がうまく現れなかった。特に反省すべきは、１の段階の生徒が増えたことである。

【理科】

今年度は、配置教頭が理科を担当しているので、理科の授業でも少人数授業やＴＴ授業を部分的に取り入れて行うことができた。その結果、

○　生徒の実験に対する動機付けが高まり、授業内容の理解が深まる。

○　同じ教室内で授業をするため、Ｔ１の教師が全員の様子を観察でき、評価が行いやすい。

○　実験の場面だけのＴＴができ、時間割の制約があるときでもＴＴが行いやすい。

○　１人で授業を行うときにも、コース別の実験は活用できる。

○　教材に関係なく、多くの授業に活用できる。

などの成果が見えてきた。

【国語科】

①　基礎学力を付けるために、１年生では毎日の宿題として、漢字（小学生

までの４年生以降の筆順など）を書かせた。また、１、２、３年生共通の取組として、授業の最初約１０分程度、短作文、漢字（小学校までの字）暗唱などを２つくらい組み合わせて行った。
②　評価がはっきりわかるように示す工夫をした。
③　１週間に一度、漢字プリント（記入式）と漢字帳で練習できる課題プリントを配り、百字以上漢字を書かせ、提出をさせた。
④　毎月、暗記課題を設定し、日本の名文や名句を暗記させた。
⑤　１年生に関しては、文に慣れさせる目的で、「今日の言葉ノート」というノートを持たせ、毎日、教師の選んだ言葉とその感想を一言と、一日の反省を書かせた。
⑥　教科書に載っていない短編の名文（夏目漱石等）を全学年で読ませた。

【社会科】
①　３年生の選択授業を２コース開設し、少人数で補充学習を行った。
②　問題解決学習において、情報機器（コンピュータ）を活用し、情報教育アドバイザーとＴＴ授業を行い、情報収集やまとめの際の補助をしてもらった。
③　単元ごとに、確認テストを行った。

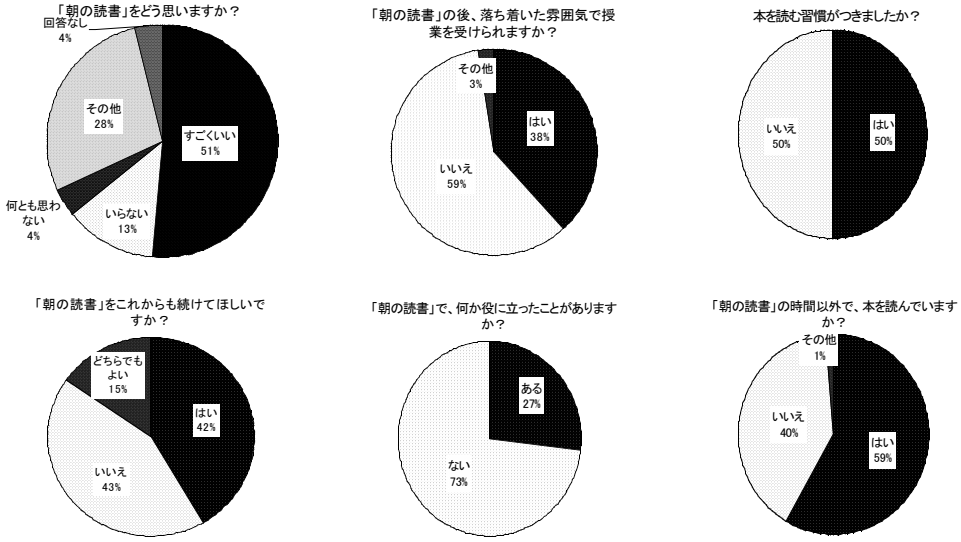
【英語科】
①　教科書の本文をできるだけ暗唱させ、音読できるようにさせた。
②　単語や基本文などを１日１ページ、ノートに書かせた。また、小テストを週１回実施した。
③　ワークシートを工夫した。

【技術科】
①　全体の取組
○　教室環境の改善
実習室の整理整頓及び掲示物を改善し、生徒の興味・関心を高めた。
○　チャイム着席の励行
チャイムと同時に着席し、時間の有効利用につとめた。
②　技術とものづくりの領域において
○　教材教具の開発
ものづくりの領域においては、抽象的でわかりにくい部分があるので材教具を開発し、理解を高めた。
○　基礎的な知識や技術の育成
楽しさを味わうことにより、興味・関心を高め、生活に必要な基礎的知識や技術を育てた。
③　情報とコンピュータの領域において
○　個々に適した指導法の工夫と改善をした。

【保健体育科】
①　体力の向上
○　自分の体のことを知り、体の調子を整えることができるようにした。
○　自ら進んで体力を高めることができるようにさせた。
②　学び方
○　自分（グループ）にあった目当てを設定し、それを達成するための課題をもち、課題解決を目指して、練習や試合の仕方を考えたり工夫したりさせた。
○　活動を振り返り、成果の確認や評価をさせた。

(2) 小・中連携の具体策として、昨年度は、研究協力校である富士小学校の公開授業を参観するだけにとどまっていたが、今年度は夏休みに１度、冬休みには富士南小学校の職員も参加して、計２度の合同研修会を開催し、お互いの学校の生徒の様子と、学習に対する取組について、情報交換を行うことができた。その中で、小学校中学校共通の取組として、宿題忘れ・未提出等には、厳しく対処していこうという確認を行った。９年間で生徒を育てるという視点に立って、来年度も合同の研修会を設けたいと思っている。

(3) 「朝の読書」をはじめて４年目になるが、生徒会がアンケートを行ったところ、以下のような回答があった。



生徒たちにとって、「朝の読書」は、よい影響を与えているばかりではないが、よく思っている生徒は、半数ほどいるので、来年度以降も、より一層の充実した取組にしていきたい。

(4) これまで３種類の検定試験（英語検定・漢字検定は年２回、数学検定は年１回）を、希望者を対象として実施してきた。生徒の人数が前年度より減ったことや受験料が高価なこともあり、受験者の数は少ないが、生徒の学習意欲を高める効果も見られたので、継続していきたい。

(5) 公開授業以外にも、校内での授業研究会を行ったことにより、教師側としては、お互いの力量を高めることができた。また、異教科の授業での生徒の様子を見ることにより、多面的に生徒を評価できることがよかった。

(6) 生徒の授業に対する心構えを見直し、教師側が共通理解して取り組んだことにより、授業前後の挨拶がよくなり、けじめがつくようになった。

２．今後の課題

(1) 等質グループに分けた少人数授業の場合、低位の生徒に丁寧に授業を行うと予定していていた進度まで、思うように進まず、上位の生徒は、時間をもてあましていた。また、習熟度別少人数授業を行っていくと、グループによって授業の進度が変わってくるので、同じ内容を学んでいるのかという不安が生徒側に生じやすい。さらに、一人の教師が出張等で授業ができないとき、両グループをまとめて一斉授業で行わなければならなくなり、やりづらくなるという課題が見えてきた。そのため、さらなる授業形態の工夫が必要であると感じている。

(2) 学力向上フロンティア事業校に指定を受け、教師側の意識は高まっているが用具忘れや課題のみ提出など、生徒の意識が学力向上に向いていない場面が多く見られ、思った以上に成果が表れていない。教師と生徒がともに同じ方向を目指すための生徒側へのアプローチが今まで以上に必要だと思われるので、来年度は、家庭との連携も考慮に入れ、何らかの方法を検討したい。

(3) 「朝の読書」に対する生徒の意識は、全体的に見ると決して高い方だとはいえないので、職員も一丸となり、来年度も継続して、意識を高めていきたい。

(4) 加配教員がつかなければ、本校の教員定数は、１教科一人である。一人で担当する教科では、ＴＴや少人数授業ができないので、一斉授業の中で、個に応じた指導を行うために、生徒のレベルに応じた教材の工夫・活用などがますます必要になってくると思われる。

(5) 研究の成果（生徒の学力がどのように向上したか）を評価するための、適切な資料の導入・提示方法をどのように行うか。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

○　年度当初に標準学力検査（ＮＲＴ）を実施し、前年度の学習内容がどれだけ身についているかを、客観的に評価しようとしてる。（年１回）

○　佐賀郡の中学校で一斉に行っている学習到達度調査（１・２年生は１月、３年生は９月と１１月に実施）の集計結果等も学力を把握するための資料としている。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　2003年 6月16日　授業公開
（２年数学「方程式の利用」、等質グループによる少人数授業）

○　2003年12月11日　授業公開
（２年理科「化学変化と質量」、興味・関心別グループによるＴＴ授業）

○　ホームページ上に、公開授業のときに用意した資料を掲載している。
http://www.saga-ed.go.jp/school/edq10752/

【新規校・継続校】　☐ １５年度からの新規校　☑ １４年度からの継続校

【学校規模】　☑ ３学級以下　☐ ４～６学級　☐ ７～９学級　☐ １０～１２学級　☐ １３～１５学級　☐ １６学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ ＴＴによる指導　☐ その他

【研究教科】　☐ 国語　☐ 社会　☑ 数学　☑ 理科　☐ 外国語　☐ 音楽　☐ 美術　☐ 技術・家庭　☐ 保健体育　☐ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　☐ 無